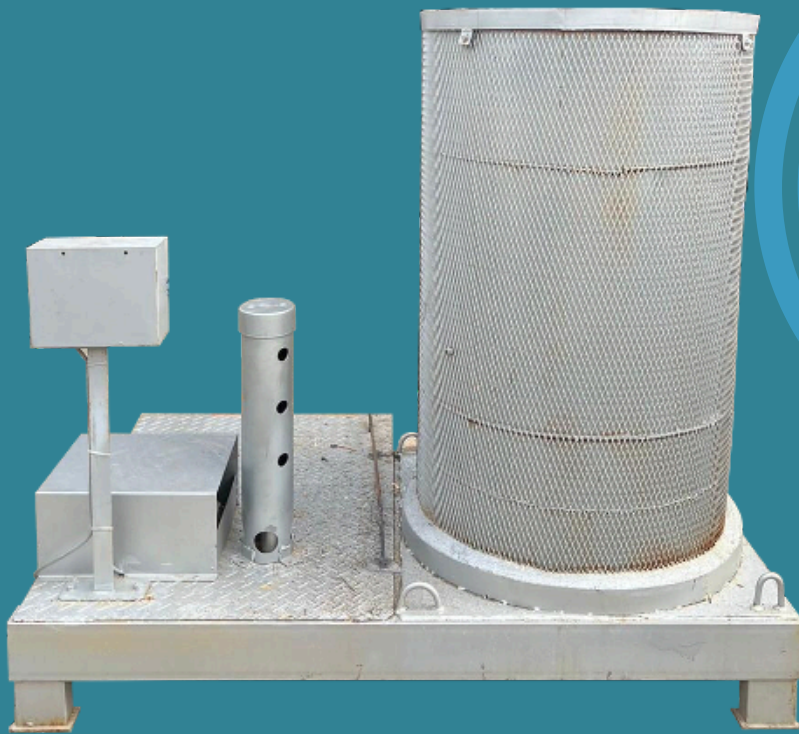


燃料不要のゴミ処理機

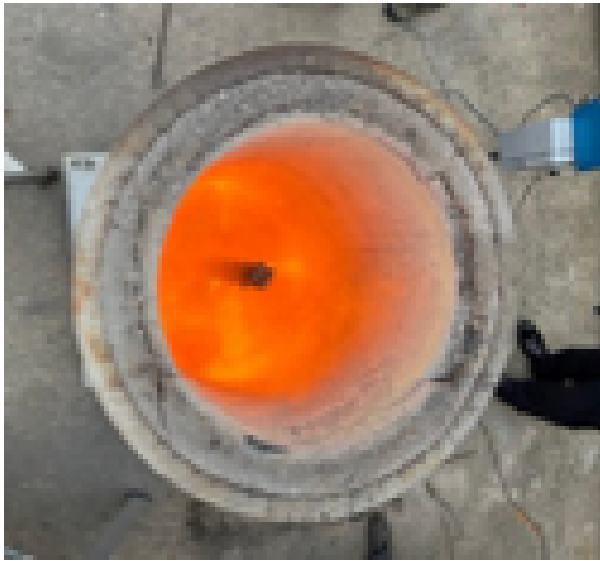


燃料不要
ZERONA
ゼロナ



- 1) ランニングコストなし。
燃料は空気（窒素＋酸素）のみ
※送風機用電力は必要
- 2) 1時間に200キロの処理が可能（1日4.8トン処理）
- 3) ゴミは固体から気体へ昇華するため黒煙が出ない。
- 4) 耐熱壁 **耐熱3000度**
- 5) 小スペース トラックで運搬可能。
- 6) 20秒で2000度まで温度上昇するため短時間の処理が可能

空気だけで動く仕組み



空気中の酸素を抽出した
高濃度酸素の供給により
約20秒で2000℃まで温度上昇

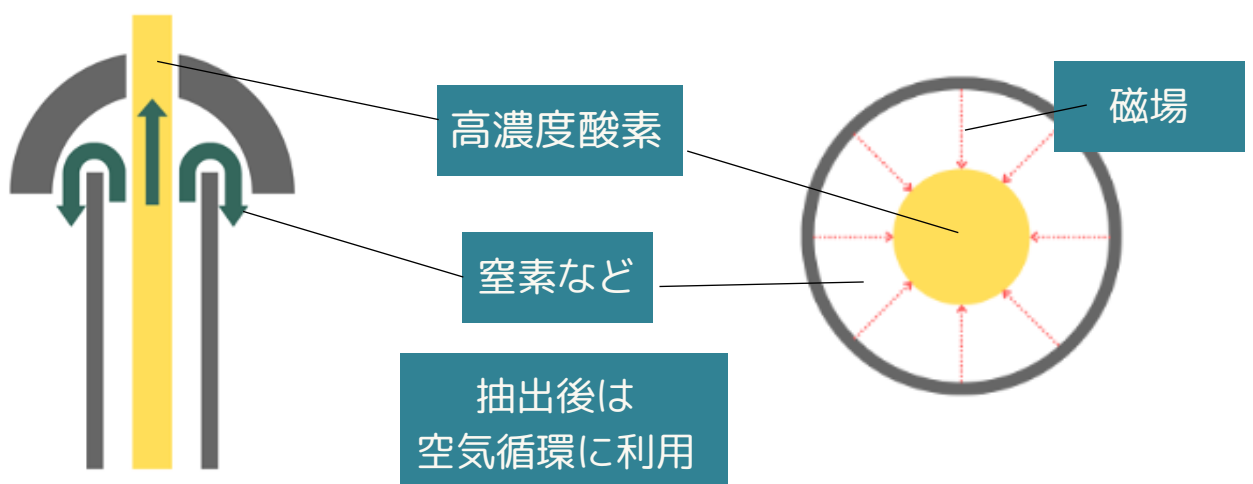
※酸素(常磁性体)
⇒ノズルに磁場を与え空気中の酸素のみをノズル中央付近に誘導
⇒高濃度の酸素を抽出可能

圧縮エアノズル



[ノズル側面断面図]

[ノズル上部断面図]



3000度まで耐える仕組み

炉壁に特殊な塗料を使用することにより、3000度まで耐えられる。

耐熱実験（溶融炉内部筐体鋼板試験）

アセチレンガス（最大3000～3800℃）を30分熱射しても溶融炉鋼板は溶融しない程、熱に耐えられる被膜処理鋼板



アセチレンガス3000℃



30分連続熱射状態



10分連続熱射状態

ノズルへの耐熱処理



エアーノズルにも
高温に耐える
被膜処理済み

そのほかの特徴



排気ガス排出部にCO₂除去フィルターを導入することで、CO₂の排出量を抑制

二酸化炭素排出量ゼロ

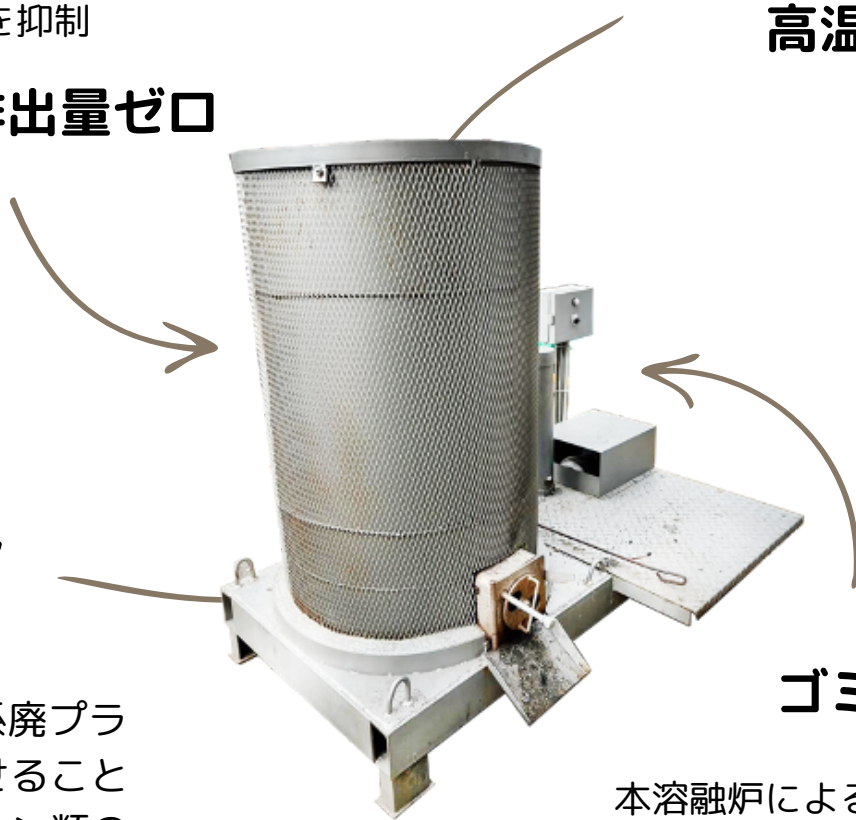
ダイオキシン排出量ゼロ

PVCなどの塩ビ系廃プラを超高温処理させることによるダイオキシン類の排出量はゼロ。熱硬化プラやアスベストなどの分解温度が高い物質にも対応可能。

2000℃の高温熔融処理を行うため、医療廃棄物や紙オムツなどの滅菌処理も兼ねることが可能。

また、袋に入れたまま処理が可能のため、作業工程での感染リスクが極めて低く、炉内の劣化も防止可能。

高温滅菌処理



ゴミの減容化

本熔融炉による超高温処理では残渣物がほとんど発生せず気化するため、ゴミの後処理コストの軽減やオムツごみの減容化が可能。0.01%に減容

